第3種郵便物認可　北海道新聞　2018年（平成30年）6月16日（土曜日）

「地域で暮らす」医福連携で支えたい

団体「CCL（くくる）」NPO法人に

釧路管内の医療・福祉関係者でつくる任意団体「本音で地域連携のあり方を検討する会」（CCL＝くくる）が、7月にもNPO法人に移行する。住み慣れた地域で暮らし続けたい高齢者のニーズに応えるため、NPO法人化で医療・介護の連携に必要な知識や視点を持った人材の育成を強化する。（光嶋るい）

CCLはCooperate（連携する）、Create（創造する）、Live（人生を楽しむ）の頭文字。地域や異なる組織の人を「くくる」という思いも込められている。

2009年に発足し、10人に満たなかった会員は現在、医師や看護師、薬剤師、ケアマネジャーなど50人に増加。医療・福祉関係者向けの研修会、在宅医療や認知症をテーマにした市民公開講座を9年間で50回近く開催したほか、15年には医療・介護の連携を円滑にすすめるヒントをまとめた冊子を発行した。

NPO法人化で団体の社会的信用度が高まり、会費で賄っている活動資金を外部から集めやすくなるなどのメリットがある。CCLの立ちあげから携わる杉元内科医院の杉元重治院長(48)は、管内では自宅や施設での「みとり」が団体の発足当時よりも増えている現状を指摘し、「専門職が学んだ知識や体験を、患者さんを中心とした医療・介護の連携体制づくりに生かしていきたい」と話す。今月30日に開く通常総会で承認を得て、7月上旬に道に申請する。

CCLは本年度、新たな取り組みとして住民向けの介護相談事業を検討するほか、引き続き研修会を通して連携に必要な姿勢を身に付ける。将来的にはICT（情報通信技術）を活用して患者情報をスムーズに共有する構想もある。事務局長の社会福祉士竹田匡さん(40)は「地域に根ざし、切れ目のない支援を進めていきたい」と話している。

くくるが開催した市民公開講座＝2017年1月

資金集めやすく 勉強会、講座で人材育成目指す